

練馬区立旭町小学校 学校だより 3月号 平成30年2月28日発行 校長 道山 正史



きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

梅と桜

旭町小学校長 道山 正史

正門のところにある平成記念樹、紅白の梅が咲いています。もうすぐ本格的な春が来るんだなあと思いながら眺めています。この前降った大雪もいつの間にかすっかり消え、プロ野球のキャンプやオープン戦の話題がしきりに報道され、あちらこちらに少し早い春の訪れを感じる季節となりました。2月はあっという間に過ぎてしまいましたね。

1年の締めくくりの月を迎えました。3月23日には54名の6年生に卒業証書が手渡されます。最高学年の6年生は、学校生活のあらゆる場面でリーダーとなり、「学校の顔」として期待に応える活躍をしてくれました。特に今年度は、「開校60周年」にあたり、その責任の感じ方はいつもの何倍にもなったことでしょう。記念式典での5・6年生の非常に立派な活躍ぶりが、今でも目に浮かびます。また、先日「6年生を送る会」が行われました。そこで毎年見られることですが、1年生と6年生が手をつないで入場し、にっこりほほえんで手をはなし、その手を振りながら自分の席に着く様は何とも言えぬ幸せを感じる光景でした。

このような立派な自覚を伴った態度とあたたかい雰囲気をも併せ持つことができるのは、異学年交流である様々なたてわり班活動がさかんだからだと私は考えています。本校では、日頃から清掃活動や全校遠足、中休みの遊びなど、たてわりで行う活動をととても大切にしてきました。そのたてわり班の班長や副班長として、上級生は下級生の子供たちをまとめ、世話をしてきたのです。また、登校班でも上級生が下級生のお世話をしています。こういった異学年交流が、本校の高学年の立派な態度とあたたかい雰囲気を支えてきたことは間違いありません。そしてその伝統を守るべく、5年生はすでに6年生との引き継ぎを終え、来年度に向けて助走をし始めています。

残念ながら、長いこと旭町小学校を見守ってきた桜のうち、何本かを伐採せざるを得なくなり、すでに切り株になった桜もあります。学校も伝統を守りつつも、時代や情勢に合わせた変化を求められることもあります。来年度から新学習指導要領の移行措置が始まるのに伴って、本校でも週時程の変更などをお知らせしています。これからも変化に対応しながらも、これまで培ってきた伝統を大切にしていきたいと思っています。

今年度の教育活動にあたり、保護者・地域の皆様、関係諸機関の皆様には、ご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。